

染織ワーキング部会の検討状況

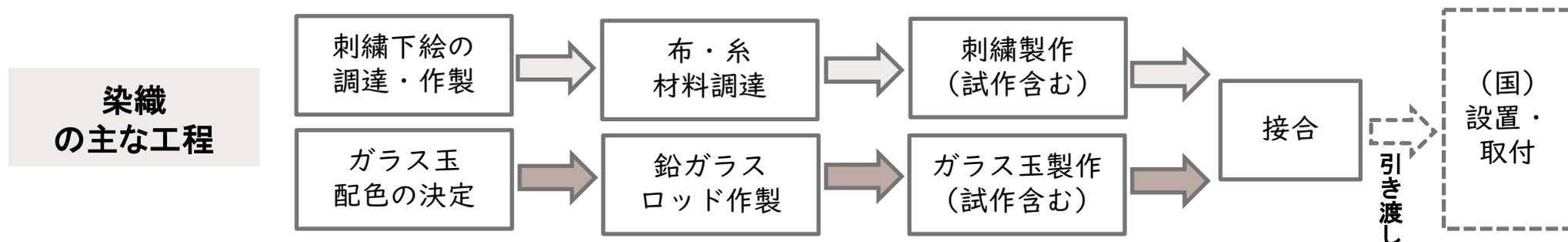
令和 5 年 3 月



■分野別の課題の整理（染織）

（1）染織WGの対象物と主な製作工程

- 染織WGの対象物は、1階御差床垂飾（瓔珞）の1項目である。



（2）染織分野の課題及びWGでの主な検討事項

- 染織WGでは、次のような課題を踏まえて、製作物ごとに製作方針の決定や製作にかかる監修を行うものとする。

①製作体制及び環境の確保

- 垂飾においては、布・刺繍とガラス玉それぞれの製作体制を確保する必要がある（参考：琉球王国文化遺産集積・再興事業の事例で同分野の復元を経験した人材・団体あり）。

②試作等による具体的仕様の検討・確認

- 垂飾のうち、前回復元以降に得られた新たな知見を踏まえる部分については、実際に試作をしながら検討・確認していく必要がある。
- 今回製作する垂飾は、復元製作を基本としつつも、正殿へ常設展示されることから、維持管理の方法も合わせて検討していく必要がある。

2. 染織WG部会の製作対象物

● 垂飾（瓔珞）

- ・ 正殿1階御差床の額木に取付いている布状の垂飾。
- ・ 前回復元時と比べて今回は主に、文様の刺繍技法、絹布の種類、飾玉の配色と製作技法が変更となる。

(1) 寸法

横幅 3,627mm、縦 380mm（宝珠含む）：一具

(2) 材料

① 布

- ・ 布地：絹製赤色緞子
- ・ 刺繍：琉球古刺繍
- ・ 文様：龍文・火焰宝珠文（金系）、雲文（赤系・青系・黄系・白系・黒系の5色）

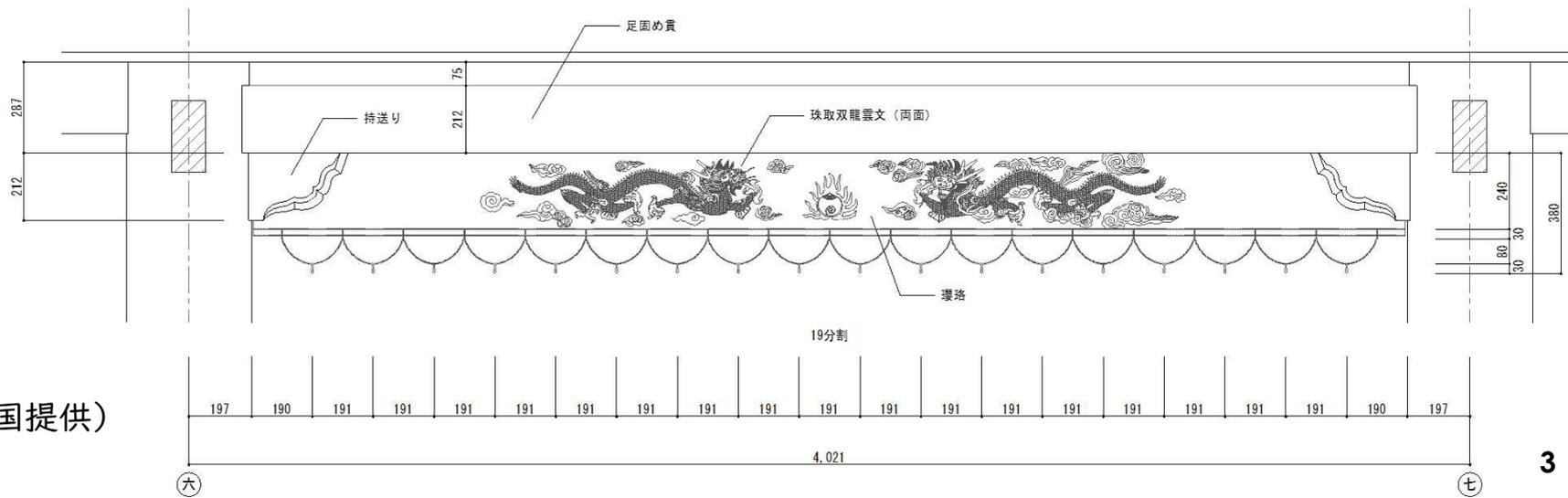
※ 2枚製作し、背中合わせにして両表面とする

② 宝珠

- ・ 大玉：赤サンゴ製、直径8mm内外
- ・ 小玉：鉛ガラス製、赤・青・黄・白・黒の5色、直径5mm内外、巻上技法で製作



垂飾イメージ図



垂飾設計図（国提供）

3. 令和4年度の染織WG部会における検討内容

- 令和4年度の染織WG部会における主な検討内容は下記のとおりである。

会議名	12月	1月	2月	3月	備考
監修会議	① 12/6			② 3/7	
染織WG部会			① 2/14	② 3/2	2回

開催日	会議名等	主な検討内容
2023. 2/14	第1回染織WG部会	<ul style="list-style-type: none"> 染織WG部会の進め方の確認 WGの対象となる製作物の確認 刺繍の製作体制(当初)の確認
2023. 3/2	第2回染織WG部会	<ul style="list-style-type: none"> 製作物の仕様の確認 下絵調査の状況報告 刺繍・緞子の検討 飾玉の検討 製作手順・工程の検討 製作上の課題(検討事項)の確認 飾玉を含む製作体制の検討

4. 染織WG部会の検討内容及び次年度に向けた課題

- 今年度の染織WG（計2回）で検討した内容及び次年度に向けた課題は下記の通りである。

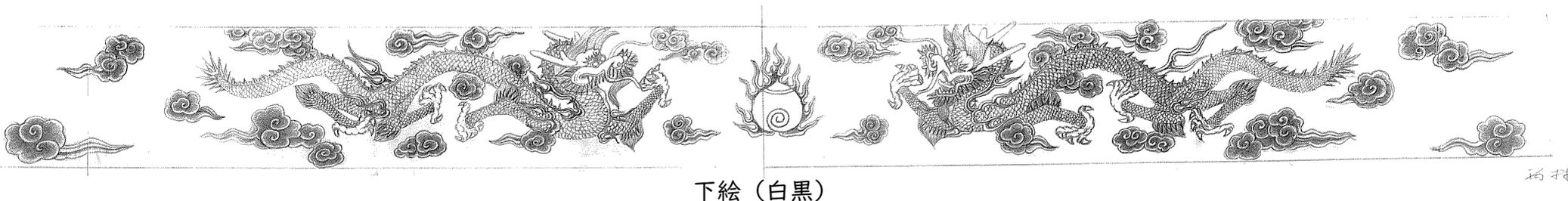
		検討内容	令和5年度の課題
検討項目	製作仕様の検討	<ul style="list-style-type: none"> 製作仕様について、雲文の配色、琉球古刺繍の技法、飾玉の配色、火焰宝珠の形状等について検討。 新たな知見で製作仕様を更新され復元精度が上がることや技術継承を考慮して、修復を適切なタイミングで繰り返し行う意義を確認。 製作仕様は速やかに決定し、製作期間を十分に確保すべきことを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 緞子は無地の絹布で紅花染め、糸は五色（赤、黄、青、白、黒）として試作することを確認できたが、他の詳細な製作仕様については引き続き検討。
	製作体制及び監修体制の検討	<ul style="list-style-type: none"> 刺繍は琉球古刺繍保存会の若手を含む会員で試作から取り組むことを確認。 飾玉は琉球王国文化遺産集積・再興事業の実績がある技術者を候補に今後調整を進める。 技術の継承も視野に、修復などの維持管理も含めた対応の必要性を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作体制及び製作環境については、引き続き調整を行う。
	製作工程	<ul style="list-style-type: none"> 刺繍と飾玉はそれぞれで製作。 詳細な工程は製作技術者との調整のもと検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 配色を確認後に令和5年度に糸・ガラス玉を調達予定。 事例調査や配色などの検討を踏まえ、試作を開始予定。
	監修方針及び頻度	<ul style="list-style-type: none"> 刺繍と飾玉とでそれぞれ監修を行うが、詳細の監修タイミングは、今後も引き続き検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 試作開始後、<u>県外を含む各技術者へと情報伝達が適切に行えるような監修を行う。</u> <u>製作スケジュールを円滑に進めるために、各作業場で実物確認しての監修も行う。</u>
	製作記録	<ul style="list-style-type: none"> 製作技術者と連携のもと、工程ごとに丁寧な記録撮影（静止画・動画）を行うことを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作スケジュールに影響がないよう製作技術者と連携のもと記録撮影を行う。

5. 垂飾文様下絵の検討

● 垂飾文様下絵の状況

- 前回の下絵製作者が保管。

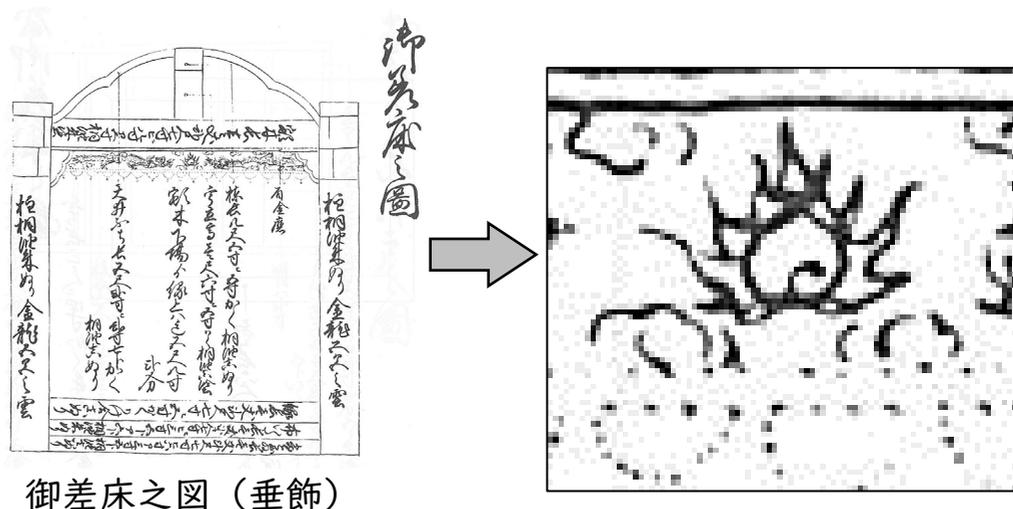
番号	製作物名称・備考	部位	下絵	所蔵者	利用可否	下図寸法
32	1階 御差床 垂飾（瓔珞）	正面・背面	下絵原図	前回下絵製作者	利用可	縦166mm×横1,836mm



- 垂飾の緞子寸法である縦240mm×横3,627mmに拡大して使用する
- 製作時検討箇所：下絵と実製作物の縦横比の処理、雲龍文の配置・配色など

● 垂飾文様下絵の再調整（予定）

- 文様下絵の火焰宝珠文が「百浦添御殿普請付御絵図御材木寸法記」（1768年）に描かれる宝珠文と雰囲気が違うため、修正を検討する必要がある。
- ただし、その場合、天井額木や内法額木の宝珠文にも関連してくるため、整合性を図る必要がある。



御差床之図（垂飾）

6. 製作工程 (素案)

- 垂飾 (瓔珞) は、令和 8 (2026) 年度上半期に国に引渡し、正殿に取り付ける
- 令和 4 (2022) 年度は、絵図・文書資料に基づき整理された製作仕様を踏まえ、令和 5 年度からの試作に向け、必要な検討・確認を行う

※必要な検討・確認：「金龍五色之雲」の配色や色相 (色調)、緞子と飾玉の縫い合せ方、飾玉の色の並びの表現

	R5年度 (2023)				R6年度 (2024)				R7年度 (2025)				R8年度 (2026)	
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
【刺繍】	試作				本製作				本製作				引渡・調整	正殿への取付
	刺繍事例の調査・分析 配色・模様 (有無)設定	試作用系調達・緞子調達・品質検討		文様刺繍試作	本製作用系調達・緞子調達			文様刺繍本製作						
	↑ 監修			↑ 監修				↑ 監修						
				縫製試作				縫製本製作						
				↑ 監修				↑ 監修						
【飾玉】	配色・素材の設定	試作用材料調達・品質検討		飾玉試作 編込み試作	本製作用材料調達・品質検討			飾玉本製作 編込み本製作						
	↑ 監修			↑ 監修				↑ 監修						